

在宅医療・介護多職種連携協議会 研修部会 ～報告～

目 的

在宅医療に係る多職種連携の推進のための研修体制について検討する。

- 顔の見える関係会議の内容について検討
- その他の研修（各団体主催研修会の連携・調整など）について検討

<令和4年度> 部会内容

第2回部会

オンライン会議
(令和5年2月24日)

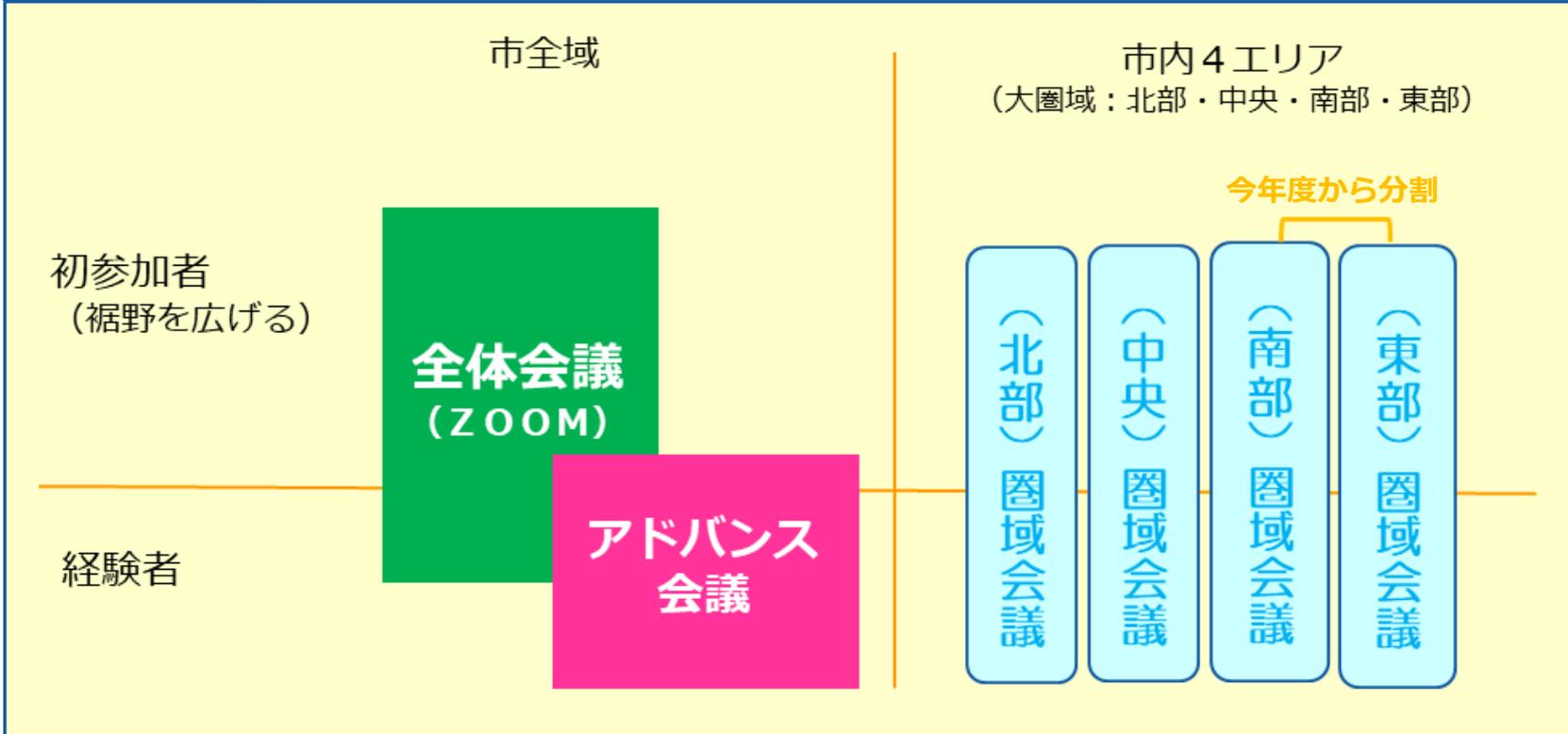
- 1 議事 ・ 令和4年度 顔の見える関係会議の振り返り
・ 意思決定支援 支援者向け研修（eラーニング）
- 2 報告 ・ 令和4年度 各団体の研修会一覧

令和4年度 顔の見える関係会議の報告

- **全体会議**：医療介護職連携の裾野を広げる（初参加者を増やす）ことを目的に、市全域を対象に、共通するトピックをテーマに開催（柏プロジェクトを周知する場としての意味合いを持たせる）
- **圏域会議**：実際の業務連携につながることを目的に、日常生活圏域（市内7圏域）を軸とするが、令和4年度は**地域性を考慮し4エリア（北部・中央・南部・東部）に変更**し、地域の実情に合わせた形での開催（包括との協働）
- **アドバンス会議**：柏市内の課題に対しての対応策・ルールづくりの検討を目的に開催

令和4年度

* 各会議前には、ファシリテーター会議を実施



令和4年度第2回 顔の見える関係会議(圏域会議)

ファシリテーター会議

日時：令和4年9月30日（金） 参加者：研修部会員・ファシリテーター 48名

【テーマ】認知症や閉じこもりの方への支援～コロナ禍において地域でどう支えるか～

圏域会議当日を想定したグループワークと、各圏域毎に当日に向けた検討を行いました。

<ご意見>

- ・事例については、参加者のイメージがしやすいよう家族や近隣住民の情報を多くし、地域ごとの特色を出してはどうか。また、既往歴や病態もポピュラーなものが良い。
- ・あらかじめカテゴリー化して、話し合っていたかどうか。
- ・書記の記録するスピードに配慮していただくよう、全体にアナウンスした方が良い。

⇒各圏域毎に座長・担当包括が打ち合わせを重ね、当日の会議に向けて準備しました。



圏域会議

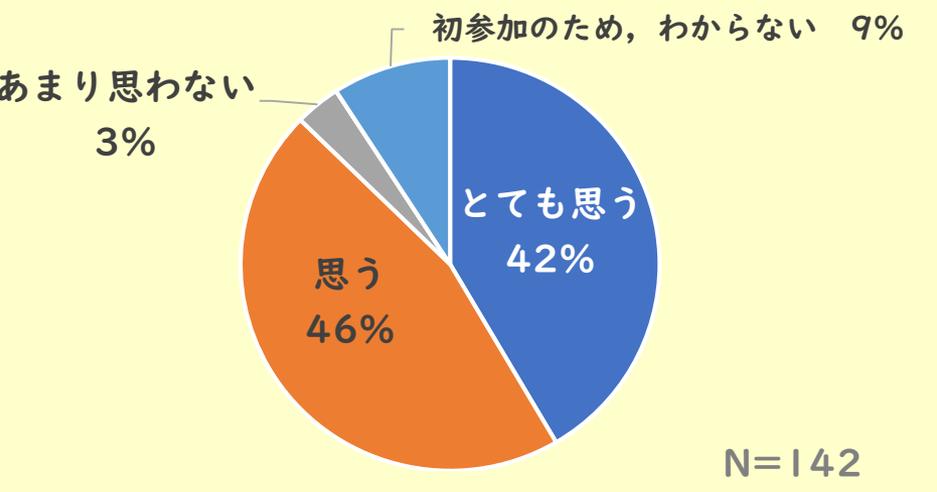
日時：（北部）令和4年12月7日（水） （中央）令和4年12月1日（木）

（南部）令和4年11月18日（金） （東部）令和4年12月2日（金）

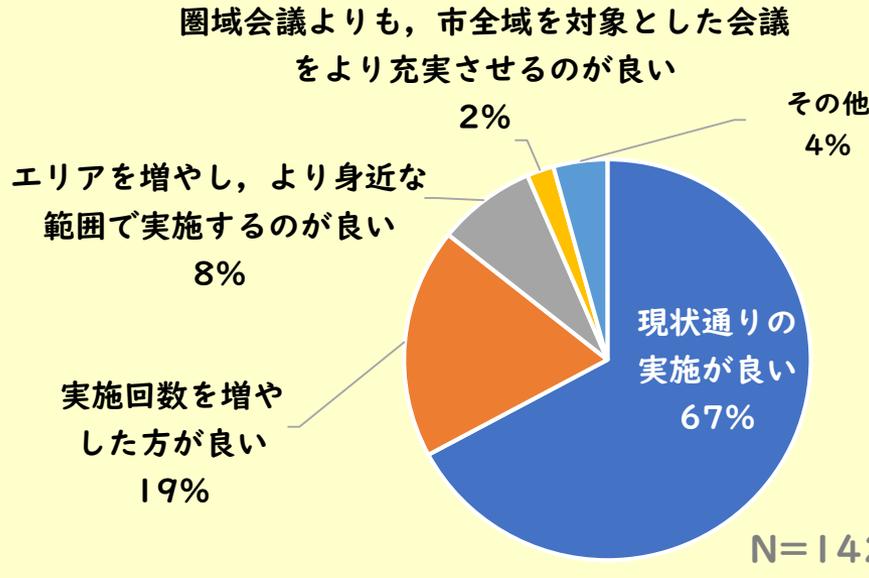
参加者：196名（北部：65名、中央：42名、南部：51名、東部：38名）

令和4年度第2回 顔の見える関係会議(圏域会議) アンケート結果

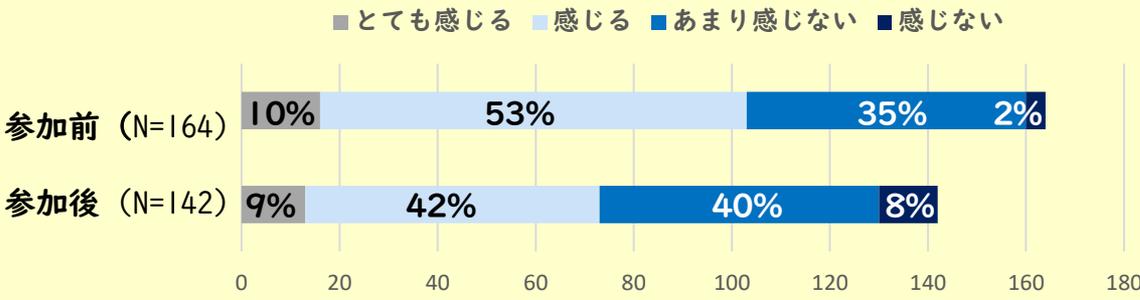
(直後) 市全域を対象とした会議に比べて、
圏域会議は、日頃の業務での連携や、
より身近な専門職との連携につながりましたか？



(直後) 圏域会議の実施回数や規模について



日頃の業務において、医療職・介護職間の敷居を感じることがありますか？



敷居を感じない
 (“あまり感じない” “感じない”)
 と回答した方の割合は、
参加前は37%だったが
参加後は48%となった。

令和4年度第3回 顔の見える関係会議(アドバンス会議)

ファシリテーター会議

日時：令和5年1月27日(金) 参加者：研修部会員・ファシリテーター 23名

【テーマ】『コロナ禍でのシームレスな入退院時連携に向けて』

アドバンス会議当日を想定したグループワークと、当日に向けた検討を行いました。

<ご意見>

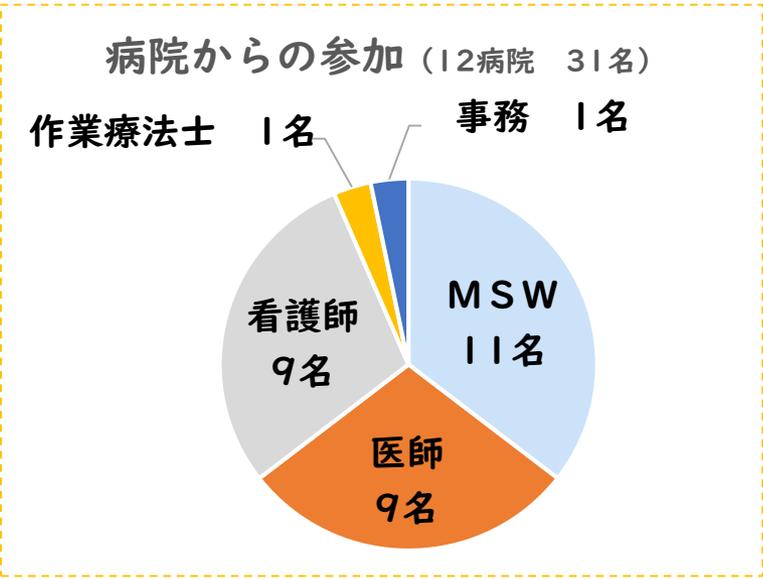
- ・入院時・退院時と場面を分けた方が話しやすいのではないか。
- ・病院⇄在宅の意見交換が前向きなものとなるよう、声かけがあると良い。



アドバンス会議

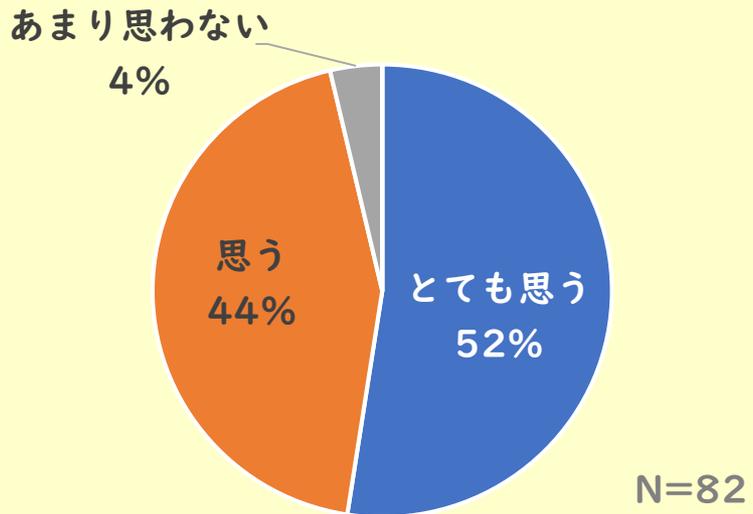
日時：令和5年2月10日(金)

参加者：131名(在宅：100名, 病院：31名)

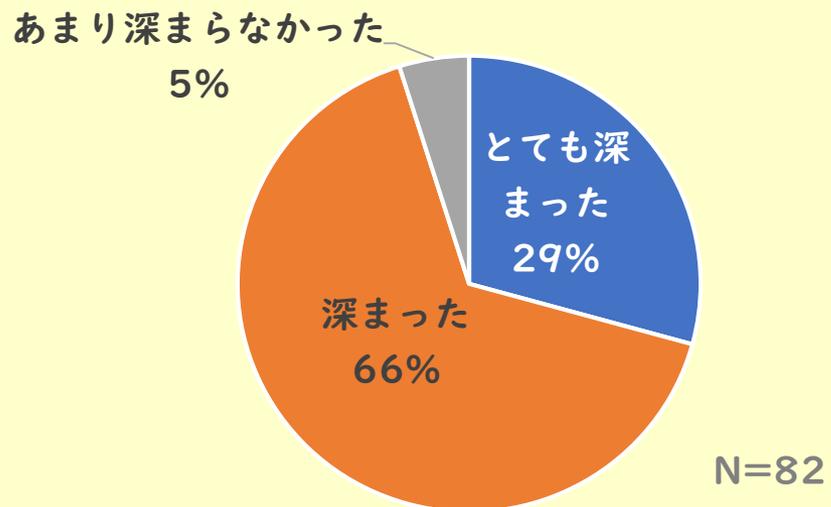


令和4年度第3回 顔の見える関係会議(アドバンス会議) アンケート結果

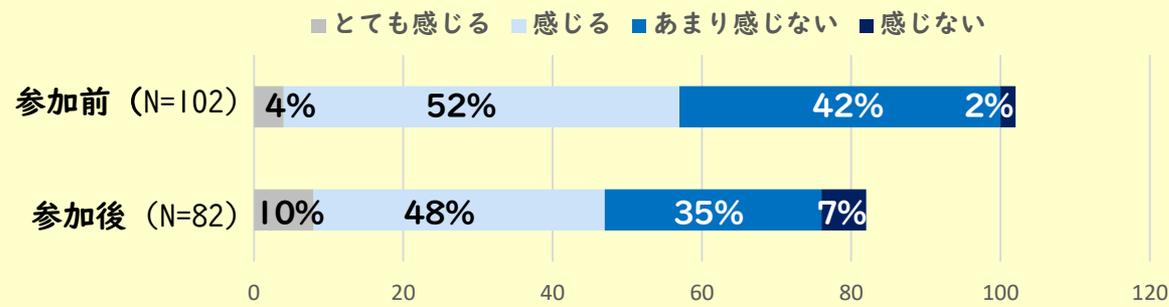
(直後) 顔会議の内容は、日頃の業務に役立つ内容でしたか？



(直後) 顔会議に参加したことで、他職種の仕事内容や役割への理解が深まりましたか？



日頃の業務において、医療職・介護職間の敷居を感じることがありますか？



敷居を感じない
 (“あまり感じない” “感じない”)
 と回答した方の割合は、
参加前は44%だったが
参加後は42%となった。

令和5年2月24日（金） 参加者：16名

今年度は、オンライン顔会議を本格的に実施し、圏域会議は4エリアを増やして実施しました。今までの取り組みの成果を継承し、さらなる発展に向けて、以下のとおり検討しました。

	オンライン顔会議について	圏域会議について
良かった点	<ul style="list-style-type: none">・ 参加しやすい。（場所等を選ばない・対面より参加に対する敷居が下がる）・ 他のグループの音が聞こえず、こじんまりしていて、発言もしやすい。・ 資料をデータでもらえると取り扱いも簡便で、必要なもののみ印刷できる。	<ul style="list-style-type: none">・ 規模は適切であった。・ 圏域はもともと顔見知りであることが多いので、連携につながりやすい。
改善点	<ul style="list-style-type: none">・ 記録を画面共有するため、顔が見えない。・ 参加者や場の雰囲気をつかみづらく、進行が難しい。・ 機器のトラブルが発生することがある。・ 書記の負担が大きい。（サブの補助があると助かる。書記のサブもいると良い。ホワイトボード機能が活用できると良い。）・ 資料は希望者のみ送付できると尚良い。	<ul style="list-style-type: none">・ 直接会って、名刺交換等できた方が連携に繋がる。・ 初参加が多く参加してもらえると良い。また、初参加者は、オンラインでは繋がりにくい。・ エリアの数は現状程度が良い。（増やすと、包括の負担が大きくなる。エリアの事業所数も減り、更に参加人数が減る）・ ファシリテーターも自分のエリアに参加できた方が良い。

コロナ禍で集合型研修が実施できない中でも、本人の意向を尊重した医療・介護ケアをおこなうために、**意思決定支援 eラーニング教材**の作成を進めています。

■目的

- ・意思決定支援とはなにか、専門職が支援することの必要性・大切さを理解することができる。
- ・日々の支援の中で、各職種ができることを知り、実践につなげることができる。

■対象

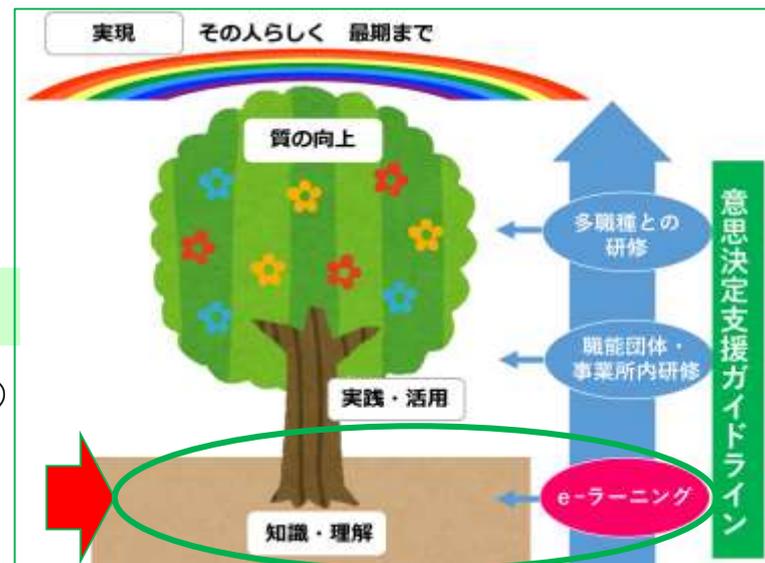
- ・柏市で働く医療・介護の専門職（特に意思決定支援の経験が少ない方）

■コンセプト

- ・意思決定支援ガイドラインがベース
- ・簡単にアクセスできる（柏市HPに公開）
- ・短時間で受講できる構成
- ・実際の支援の場面を映像やイラストで紹介する

■活用方法

- ・柏市ホームページに限定公開（URLを通知した柏市の専門職のみ閲覧可能）
- ・事後アンケートを実施して、効果を検証。



今年度は、導入編・事例からの学び（在宅編）を作成。1コマの動画が、10分程度で構成されているので、業務の合間に少しずつ見ることや、必要な動画を選択して見ることが可能。

導入編 8分

- ・意思決定支援とはなにか
- ・社会的背景について
- ・どうして意思決定支援が必要なのか
- ・本人や家族に対する効果と、専門職にとってのメリット

在宅編（合計 約1時間30分）

～Tさん 老衰看取りの場合～

ケース紹介 (4分)	・ 家族構成	・ 利用サービス	・ 支援サマリ
個別インタビュー (10分×7)	<支援者>		・ 心に残るエピソード ・ うまくできたこと、うまくできなかったこと、その要因 ・ 意思決定支援で大切にしていること
	①訪問診療医	②訪問看護師	
座談会 (10分)	<当事者>		・ 自宅で看取中での思い ・ 多職種の関わりについて感じたこと
	⑦家族		
まとめ (2分)	振り返りの機会の効果		
	・ ケアの質の向上につながる ・ 多職種間の相互理解とチームアプローチの重要性への理解 ・ 支援者の学びの機会		
	Tさんの事例からの学びを、ガイドラインと結び付けて紹介		

施設編	
～特養での場合～	
ケース紹介	・ 家族構成 ・ 利用サービス ・ 支援サマリ
未定	
まとめ	事例からの学びを、ガイドラインと結び付けて紹介

作成中

事例からの学び

- ・ 意思決定支援ガイドライン
- ・ 振り返りカンファレンスの進め方（例） 等

実践 ツール

■「導入編」「事例からの学び（在宅編）」をご視聴していただいた上でのご意見

Point ①見やすい構成か ②追加・修正が必要な箇所はあるか ③コンテンツの時間（長さ）はどうか

良い点	<ul style="list-style-type: none"> ・新人や、これから意思決定支援に関わる方にとってわかりやすい内容になっている。 ・介護職もチームの中で役割を担っていることをイメージできた。 ・各コンテンツが短時間で見やすい。 ・振り返りの機会が提案されていて、イメージしやすかった。 ・どの職種も迷いながら対応しており、関わりの中で成長していることがわかった。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインが“人生の最終段階における意思決定支援”なので、動画にも言葉の補足が必要。 ・動画ごとにACP等の言葉の解説が入っていると、介護職にもわかりやすく、活用しやすい。 ・広く見てもらえるような工夫が必要。 ・引用・エビデンス等が明記されているとより良い。 ・確認テストのようなものがあったとしてもよいのではないか。 ・うまくいかないこともあり、それが悪いことではないということも今後伝えられるとよい。

■意思決定支援 支援者向け研修（eラーニング） 今後の予定

- 4 月：完成予定 *「導入編」「事例からの学び（在宅編）」
- 5 月：第1回研修部会 *完成した教材についてご報告
- 6月以降：動画公開予定

■ 研修部会

5月頃 第1回研修部会

【議事】 令和5年度の顔の見える関係会議の企画

意思決定支援 支援者向け研修（eラーニング）など